

ダム下流における影響軽減への取り組み 清流復活の片品川

片品川を生き返らせる会 野村完一

関東平野を勇壮に横切る「板東太郎」の異名をとる利根川、その上流の群馬県利根郡片品村より沼田市の南面を流れ利根川に合流する支流の片品川は、水源に尾瀬沼をいただき、流域面積67万6,000平方メートル、延長約60キロメートルで利根川支流の5指に入り良質の水質を有し、その昔「片品川の鼻曲がり鮎で」で有名な川魚の宝庫であった。

昭和30年代後期、上流にダムが出来て以来、下流にほとんど水が流れず年々増加する家庭生活雑排水等の流入で川の汚濁がひどくなり、特に平成2年、3年の渇水期には、白い海綿状の藻が異常繁殖し、ドブ川化して死の川となってしまった。

又、沼須地区農家のビニールハウスによる促成栽培に片品川からの用水を利用し野菜等を作るためポンプで水の供給をしていたが、このポンプに海綿状の藻が絡み止まってしまう等、農作業に支障が出て困っていた。

水瓶とも云われる水源地域に住む我々住民の貴重な財産である川の水が日常生活を脅かす状況から、常時一定量の水が流れていれば川が持つ自浄能力により汚濁水が薄められ、川が生きかえるとの考えから片品川に清流を呼び戻そうと、平成3年3月地域住民有志数十名にて発足させた。

「片品川を生きかえらせる会」で流域住民7,460名の署名を集め、同年7月・8月に関係省庁、機関に、片品川に常時一定の水を流してほしいと陳情した。

今や、世界が環境破壊から自然を守ろうとする運動が拡大しつつある昨今で、関係省庁、機関も好意的対応をしていただいた。

平成3年8月、平成4年11月と陳情を重ね僅か1年5ヶ月で常時一定量の水を流す事を決定した確答をいただき、平成5年1月12日から毎秒2トンの水が流されたものであります。

その後、平成6年3月16日県営平井出ダム（群馬県企業局）から毎秒0.3トンの期間放流（毎年5月から10月）が決定し、平成8年6月14日根利川

発電所から毎秒0.3トンの期間放流（毎年5月から10月）が決定しこれにより片品川全てに流れが戻る事となった。

「片品川を生きかえらせる会」は今後の活動方針として、河川清掃等美化運動を中心に運動し、流域住民の長年の夢であった、水清くカジカの住める川、鼻曲がり鮎復活、子供達が安心して親しみ遊べる川として片品川を昔ながらの姿に一日も早く戻す為の活動を地域住民と共に行って行きたいと考えております。